

佐々町立佐々中学校 学校だより(HP)

「ときめき」 第28号 令和4年3月11日(金) 文責 校長 井上博之

○ 学校評価アンケートの結果と今後の取組について(その3)

第27号の教職員アンケートに続き、今回は保護者の学校評価アンケートの結果と今後の学校改善についてお知らせいたします。

【保護者アンケートの結果】※HP用では結果一覧は掲載しておりません(学校だよりをご覧ください)

- ① 全項目の平均値から全体的な回答状況を見ると、前期→3.1、後期→3.0
肯定的な回答＝「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した保護者の割合は前期→85%、後期→81%となりました。
- ② 特に評価が高い項目(3.8以上)はなく、ほぼ2.9～3.1の範囲に入る
- ③ 評価が低い項目(2.9以下)は、No.3, 7, 12, 13, 21, 23
- ④ 前・後期での変化(差)は、0.1～0.2で、低下している項目が多い

前期に比べて後期は評価が低下している項目が多く見られました。1学期の体育大会と2学期の文化発表会以外は、生徒の活動や授業の様子等を直接見ていただく機会が残念ながら持てませんでした。

そこで、学校だよりや学校HPのブログ更新等を意識して行いましたが、No.1, 3, 4, 6の結果を見ると十分ではなかったと考えられます。

生徒活動に関する項目を生徒アンケート(第26号)の結果と比較すると、No.12, 13, 14, 16に関連する生徒の評価結果は、生徒アンケートのNo.10「あいさつ」→3.3、No.1「授業に真剣」→3.5、No.2「内容理解」→3.6、No.5「家庭学習」→3.5、No.18「学校のきまり」→3.8、という結果であり、保護者アンケートとは大きな差が見られました。

多くの生徒は良く努力し、真面目な学校生活を送っていますが、保護者や地域からの『生徒や学校への大きな期待』があるからこそ、現状に対して厳しい目を向けていただいているものと考えています。

開かれた学校、その他の項目については、前述のとおり、PTAの諸活動や授業参観、学年学級懇談会、学校公開等の中止が大きく影響していると考えられます。今後は、感染対策等で学校にご来校いただけない状況でも、生徒の学校での活動や活躍の様子を地域や保護者の方にしっかりお伝えする方法について、更に創意工夫し検討していきたいと思います。

【今後の学校改善に向けて】

1. 課題と問題意識の共有

学校改善に向け、まずは学校の現状と課題を把握し、職員全員で共通理解

を図るために校内研修（職員研修会）を実施し、本校の特色や強み、課題、どのような生徒の姿を目指したいか、そのために何ができそうか等、自由に出し合い、お互いの考えを共有しました。その結果、職員から特に多くあがったのは、「人権」「仲間づくり」「心の教育」「規範意識」等に関する教育の必要性でした。



2. 目指す目標とそのための具体的手段（ビジョン）

そこで、2学期の学校経営方針で校長から提案していた「ピア・サポートプログラム」の実践と、年間を通して行う「人権教育」を2つの柱として教育目標の中にしっかり位置づけること。具体的には「総合的な学習の時間」の運用を見直し、教育課程に組み込んで計画的に学習と実践の場を設定すること。毎日の授業、学校生活のあらゆる場面で生徒の人権意識と、助け合い・よりよい仲間づくりを意識させていくこと。これまで行ってきた「学校行事」を実践の場として活用していくこと等を提案し、現在、これを踏まえた次年度の計画（案）を作成しています。

☆ ピア・サポート プログラムの考え方

予防教育的な考えをベースとした、「他の人の役に立つ体験を通してすべての生徒に自己有用感を獲得させていく取り組み」

- ・「領域Ⅰ」→ 対人関係に関する体験学習
- ・「領域Ⅱ」→ 学級内～学年全体～学校(異学年交流)全体へ、生徒同士の交流をとおして全校生徒が互いに育ちあう視点で、行事を含めた様々な場面での取り組み方を見直す

3. 学校目標を踏まえた教育課程、教育計画の作成、役割分担と連携

今後は、明確で分かりやすい学校目標を設定し、教育課程・教育計画の見直し、役割分担等を行い、準備を進めていきます。生徒に対しては、2/22（火）全校集会（リモート）で校長の考えとして直接伝えました。本校生徒の多くが持っている「困っている人がいたら助けてほしい」「人の役に立つ人間になりたい」という思いともリンクして、全ての生徒が安心安全に学べる学校づくりができるものと期待しています。